

博多メディカル専門学校

学 則

学校法人 博多学園

博多メディカル専門学校

博多メディカル専門学校学則

第 1 章 総 則

第 1 条 本校は、臨床工学技士・歯科技工士および歯科衛生士としての必要な知識並びに技能を授けるとともに、健全な社会人としての徳性を涵養することを目的とする。

第 2 条 本校は、博多メディカル専門学校（以下、本校という）と称する。

第 3 条 本校は、福岡市博多区千代 4 丁目 3 2 番 1 号に置く。

第 4 条 本校は、学校法人博多学園が設置経営する。

第 5 条 本校の修業年限は、次のとおりとする。在学年限の限度は、修業年限の 2 倍の年数とする。

- (1) 臨床工学技士科 3 年
- (2) 歯科技工士科 2 年
- (3) 歯科衛生士科 3 年

第 6 条 本校の学級編成および収容定員は、次のとおりとする。

科 別		医 療 専 門 課 程		歯 科 技 術 専 門 課 程			
		臨 床 工 学 技 士 科		歯 科 技 工 士 科		歯 科 衛 生 士 科	
定員 および 学級数	学年	学 級	定 員	学 級	定 員	学 級	定 員
	1 年	1	4 0	1	3 2	1	5 0
	2 年	1	4 0	1	3 2	1	5 0
	3 年	1	4 0	—	—	1	5 0

第 7 条 本校には、下記の教職員を置く。

- (1) 校 長 1 名
- (2) 副 校 長 1 名
- (3) 教務主任 3 名（各学科 1 名）
- (4) 教 員 （教務主任を含む）

学 科	臨床工学技士科	歯科技工士科	歯科衛生士科
基幹教員	6 名以上	4 名以上	5 名以上
講 師	若干名	若干名	若干名

(5) 事務職員 3 名以上

(6) 校 医 1 名

- 2 校長、副校長、教務主任の職務
 - (1) 校長は、校務をつかさどり所属する教職員を指導監督する。
 - (2) 副校長は校長を補佐し、校長から委任された校務をつかさどり、校長から指示された特命事項の管理を行う。
 - (3) 教務主任は校長を補佐し、所属学科の教務全般についての企画・運営を行い、所属教員を指導監督する。
- 3 校長は、校務の円滑な運営のために下記の会議を招集し、これを主宰する。ただし、教務会議については教務主任が招集し、主宰する。
 - (1) 管理職会議
 - (2) 校務運営会議
 - (3) 職員会議
 - (4) 教務会議
- 4 上記記載の各会議に必要な事項は、別に定める。

第 2 章 学科目および単位・授業時間数

- 第 8 条** 校長はそれぞれの規則に則り、各科において実施する学科目および授業時間を決定する。
- 2 校長は前項の決定をする場合、各科の教務会議の意見を聴取するものとする。
 - 3 校長は実施した教育課程・学科課程について検討するため、各科の教務会議を少なくとも年 1 回招集するよう教務主任に命じるものとする。
 - 4 校長が下記各科の課程表以外に必要と認めたときは、随時、課外講義を行うことができる。
なお、その評価については、教務会議で総合的に評定する。
 - 5 校長が認めたときは、教育課程・学科課程の範囲内で実施時間および施行日の変更を行うことができる。
 - 6 各科の修得すべき授業科目および単位・時間数は、別表に掲げるとおりとする。
 - 7 各授業科目の単位は、次の各基準による。
 - (1) 講義および演習については、15 時間から 30 時間までの範囲で各科が定める時間の授業をもって 1 単位とする。
 - (2) 実験、実習、実技等については、30 時間から 45 時間までの範囲で各科が定める時間の授業をもって 1 単位とする。
 - (3) 臨床実習については、45 時間の実習をもって 1 単位とする。
 - 8 単位の認定については、講義、実習等を必要な時間以上受けていると共に当該科目の内容を修得していることを確認し、校長が認定する。
 - 9 学校教育法に基づく大学、短大もしくは高等専門学校、臨床工学技士法施行規則第 14 条各号、歯科技工士法第 14 条第 1 号、第 2 号および歯科衛生士法第 12 条第 1 号、第 2 号に規定する学校、文教研修施設もしくは養成所において既に修得した科目については、各科の教務会議において前の学校または養成施設のカリキュラム内容が、本校の該当する養成所指定規則に定められたものとの整合性が確認された場合についてのみ考査を実施し、その結果に基づき免除することができる。

1. 医療専門課程 臨床工学技士科（以下、「臨床工学技士科」という。）

教育内容		科 目 名	授業方法	分野別 単位数	科目別 単位数	第1学年	第2学年	第3学年	総時間数
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	倫 理 学	講義	15	1	24			24
		社 会 学	講義		1	24			24
		心 理 学	講義		1	24			24
		物 理 学	講義		2	48			48
		数 学 学	講義		2	48			48
		化 学 学	講義		1	24			24
		外 国 語	講義		3	24	24	24	72
		コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論	講義		3	24	24	24	72
	日 本 語 表 現 法	講義	1	24				24	
小 計			15	15	264	48	48	360	
専門基礎分野	人体の構造及び機能	解 剖 生 理 学	講義	6	4	96			96
		医 学 演 習 Ⅰ	演習		1		24		24
		医 学 演 習 Ⅱ	演習		1			24	24
	臨床工学に必要な 医学的基礎	医 療 学 概 論	講義	9	1	24			24
		病 理 学 概 論	講義		1		24		24
		臨 床 生 理 学	講義		1		24		24
		臨 床 生 化 学	講義		1		24		24
		臨 床 免 疫 学	講義		1			24	24
		臨 床 薬 理 学	講義		1		24		24
		公 衆 衛 生 学	講義		1		24		24
		基 礎 医 学 実 習	実習		1		40		40
		チ ャ ッ ト 医 療 論	講義		1			24	24
	臨床工学に必要な 理工学的基礎	微 分 積 分 学	講義	16	1	24			24
		電 磁 気 学	講義		2	48			48
		工 学 演 習 Ⅰ	演習		1	24			24
		工 学 演 習 Ⅱ	演習		1			24	24
		基 礎 工 学 実 習	実習		1	40			40
		電 気 工 学	講義		3	48	24		72
		電 気 工 学 実 習	実習		1	40			40
		電 子 工 学	講義		3		48	24	72
		電 子 工 学 実 習	実習		1		40		40
	医 用 機 械 工 学	講義	2		48		48		
	臨床工学に必要な 医療情報技術と システム工学の基礎	シ ス テ ム 工 学	講義	7	1			24	24
		情 報 処 理 工 学	講義		3	48	24		72
		情 報 処 理 工 学 実 習	実習		1	40			40
		医 療 情 報 学	講義		1			24	24
統 計 学		講義	1				24	24	
小 計			38	38	432	368	192	992	
専門分野	医用生体工学	医 用 工 学 概 論	講義	7	2	48			48
		生 体 物 性 工 学	講義		2		24	24	48
		医 用 材 料 工 学	講義		1		24		24
		計 測 工 学	講義		1	24			24
		先 端 技 術 工 学	講義		1			24	24
	医用機器学及び 臨床支援技術	医 用 治 療 機 器 学	講義	11	3	24	48		72
		生 体 計 測 装 置 学	講義		3	24	48		72
		医 用 機 器 学 実 習	実習		1			40	40
		臨 床 支 援 技 術 学	講義		2		24	24	48
		臨 床 支 援 技 術 学 実 習	実習		2		40	40	80
	生体機能代行技術学	生 体 機 能 代 行 装 置 学 Ⅰ	講義	12	2	24	24		48
		生 体 機 能 代 行 装 置 学 Ⅱ	講義		2		24	24	48
		生 体 機 能 代 行 装 置 学 Ⅲ	講義		2		24	24	48
		生 体 機 能 代 行 装 置 学 Ⅳ	講義		1			24	24
		生 体 機 能 代 行 装 置 学 実 習	実習		5	40	80	80	200
	医療安全管理学	医 療 安 全 管 理 学	講義	6	4	24	48	24	96
		医 用 機 器 安 全 管 理 学 実 習	実習		1			40	40
		リ ス ク マ ネ ー ジ ャ ン ト 論	講義		1			24	24
	関連臨床医学	臨 床 医 学 総 論	講義	8	6	48	72	24	144
		病 態 治 療 学	講義		2	24	24		48
臨床実習	臨 床 実 習 論	実習	7	7		120	160	280	
その他	臨 床 工 学 総 論	講義	7	7	24	24	120	168	
小 計			58	58	304	648	696	1,648	
合 計			111	111	1,000	1,064	936	3,000	

2. 歯科技術専門課程 歯科技工士科（以下「歯科技工士科」という）

教 育 内 容		科 目 名	分野別 単位数	単位数	第1学年		第2学年		総時間数
					講義・演習	実験・実習	講義・演習	実験・実習	
基礎分野	科学的思考の基盤、人間と生活	外 国 語	6	1			28		28
		造 形 美 術 概 論		1		45			45
		情 報 リ テ ラ シ ー		2			19	30	49
		コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学		1	25				25
		ビ ジ ネ ス 能 力		1			19		19
専門基礎分野	歯科技工と歯科医療	歯 科 技 工 管 理 学	4	4	32		32		64
	歯・口腔の構造と機能	歯 の 解 剖 学	9	1	16				16
		歯の解剖学 乳歯と永久歯の形態学		4	24	60		30	114
		歯 の 解 剖 学 口 腔 解 剖		1	19				19
		歯の解剖学 口腔組織発生学		1	16				16
		顎 口 腔 機 能 学		2	28	30			58
	歯科材料・歯科技工機器の特徴と加工技術	歯 科 理 工 学 無 機 有 機	7	4	54	45			99
		歯科理工学 金属・成形・安全性		3			36	45	81
専門分野	有床義歯技工学	有 床 義 歯 技 工 学 総 論	19	1	16				16
		印象採得と咬合採得に伴う技工作業		3	32	45			77
		ク ラ ス プ と パ ー の 製 作		4	32	60			92
		有 床 義 歯 の 製 作		10			64	180	244
		有 床 義 歯 技 工 学 総 合		1			16		16
	歯冠修復技工学	ク ラ ウ ン	13	1	20				20
		ブ リ ッ ジ		1	16				16
		クラウンとブリッジの製作		9	32	180		72	284
		歯 冠 修 復 技 工 学 総 合		2			32		32
	矯正歯科技工学	矯 正 歯 科 技 工 学	3	3	28	64			92
	小児歯科技工学	小 児 歯 科 技 工 学	3	3	28	64			92
	歯科技工実習	歯 科 技 工 の 基 本	12	3	16	30	16		62
		臨 床 歯 科 技 工		5			48	84	132
		全部床義歯の人工歯排列・歯肉形成		2				72	72
臨 床 見 学		2					64	64	
合 計			76	76	434	623	310	577	1,944

3. 歯科技術専門課程 歯科衛生士科(以下、「歯科衛生士科」という。)

学 科 目			分野別 単位数	単位数	第1学年	第2学年	第3学年	総時間数
基礎分野	科学的思考の基盤	生 物 学	11	2	30			30
		化 学		2	30			30
	人間と社会生活の理解	心 理 学		2		30		30
		社 会 学		2	30			30
		英 語 会 話		1		30		30
		歯 科 英 語		1		30		30
		情 報 処 理 論		1	40			40
専門基礎分野	人体・歯・口腔の構造と機能	解 剖 学	11	2	30			30
		組 織 ・ 発 生 学		2	30			30
		口腔解剖学・歯牙解剖学		2	45			45
		歯 型 彫 刻		1	30			30
		生 理 学		2	30			30
		生 化 学		2	30			30
	疾病の成り立ちと回復の促進	病 理 学	6	2	30			30
		薬 理 学		2	30			30
		微 生 物 学		2	30			30
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	口 腔 衛 生 学	9	3	50			50
		歯 科 衛 生 統 計		1		30		30
		衛 生 学 ・ 公 衆 衛 生 学		2	30			30
		地 域 保 健 活 動 論		1			15	15
		衛 生 行 政		1			15	15
	社 会 福 祉 概 論	1		15		15		
専門分野	歯科衛生士概論	歯 科 衛 生 士 概 論	2	1	20			20
		医 療 倫 理 学		1	15			15
	臨床歯科医学	歯 科 臨 床 概 論	14	1	15			15
		齲 蝕 治 療 学		2	20	20		40
		歯 周 療 法 学		2	30			30
		歯 科 補 綴 学		2	30			30
		口腔外科・歯科麻酔学		2		30		30
		小 児 歯 科 学		2	30			30
		矯 正 歯 科 学		2		30		30
		歯 科 放 射 線 学		1		30		30
	歯科予防処置論	歯 科 予 防 処 置 法	8	8	200	80	40	320
	歯科保健指導論	栄 養 指 導	8	2	45			45
		歯 科 保 健 指 導 法		6	80	120	40	240
	歯科診療補助論	歯 科 材 料	11	1	20			20
		臨 床 検 査 法		1		45		45
救急処置実習と心肺蘇生法実習		1			35		35	
医 療 保 険 事 務		1				30	30	
技 工 実 習		1			30		30	
歯 科 診 療 補 助 法		6		120	80	40	240	
臨地・臨床実習	臨 地 ・ 臨 床 実 習	20	20	45	180	675	900	
選択必修分野		日 本 語 表 現 法	10	1		30		30
		障 害 者 歯 科 学		1		15		15
		高 齢 者 歯 科 学		2		30		30
		隣 接 医 学		2		30		30
		摂食機能・口腔機能訓練法		1		30		30
		医 療 コミュニケーション学		1		30		30
		接 遇 作 法		1	30			30
		手 話		1		30		30
合 計			110	110	1,195	1,010	855	3,060

第3章 学年・学期および休業日

第9条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第10条 学年は、2期に区分する。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌3月31日まで

第11条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日および国民の祝日に関する法律に規定する日

(2) 夏期休業日 7月21日から8月31日まで

(3) 冬期休業日 12月24日から1月7日まで

(4) 春期休業日 3月21日から4月7日まで

(5) 原則として毎月、第2、第4土曜日（ただし、学校行事を優先する）

(6) 他に校長が特に定める日

校長が必要と認めたときは、休業日を変更することがある。

第12条 毎週の授業時間数並びに始業および終業の時刻は校長が定める。

第4章 入学・休学および退学

第13条 入学の時期は、学年始めとする。

第14条 本校に入学出来る者は、学校教育法第90条第1項に該当する者で、本校所定の選抜試験に合格し、校長が入学を許可した者とする。

- 2 聴覚等に障がいのある者の入学については、各入学選考委員会等の意見を参考にして校長が決定する。

第15条 入学志願者は所定の書類を取りそろえ、入学検定料をあらかじめ納入した上で、定められた期日内に提出しなければならない。

第16条 入学選抜試験は、該当年度募集要項に基づいて実施する。

- 2 各年度の募集要項は学則第6条および第14条に基づいて校長が定める。
3 その他入学選抜についての必要な事項は別に定める。

第17条 入学の許可を受けた者は、指定期日までに保護者および保証人1人を定め、誓約書に身上書、健康診断書および入学志願時に卒業見込証明書を提出した者は卒業証明書を添えて校長に提出し、入学金を納入しなければならない。

- 2 入学日に許可なく出席しない者は、入学許可を取り消すことがある。
3 第1項に規定する保護者は、父母・兄弟・後見人または近親者であって、独立の生計を営む者であること。また、保証人は、保護者以外で独立の生計を営む者で福岡市内およびその近郊に在住する者であることが望ましい。

- 4 校長は入学を許可した者について、所定の様式により必要な事項を記入した指導要録を作成するものとする。

指導要録には前記の事項のほか、本人の修学状況を学年ごとに記録して学習指導に供するほか、進級、卒業の認定のための資料とする。

第18条 他の学校または養成所から転入学を希望する者がある時は、本校に欠員がある場合のみ転入学試験の上、転入学を許可することがある。その場合の既に修得した科目の単位については、第8条第9項に基づき免除することができる。

転入学の時期は、学年始めとする。

- 2 本校の学生で、他の学校または養成所に転学を希望する者は、保護者連署の上、詳しく事情を付して申し出るものとする。
- 3 校長は申し出の事情によっては、転学を認めることができる。

第19条 誓約書および身上書の記載事項に変更等のあった場合は、直ちに校長に届出なければならない。

第20条 学生が欠席する場合は、その理由を付して校長に届出なければならない。
ただし、1週間以上の病気欠席の場合には診断書を添えて、校長に提出しなければならない。

第21条 校長は感染症予防等のために必要と認めた場合には、出席停止を命ずることがある。

- 2 出席停止に関する事項については、別途定める。

第22条 学生が休学しようとする場合には、休学願を提出し、校長の許可を受けなければならない。
ただし、正当な理由なしに休学することはできない。

また、その理由が病気による場合には、診断書を添えなければならない。

- 2 休学の期間は1年以内とする。ただし、校長が特別の理由があると認める者に対しては、更に1年以内に限り延長することができる。
- 3 休学期間は、第5条に規定する在学年限には算入しない。
- 4 休学期間は、通算して修業年限を超えることができない。

第23条 復学を希望するときは、復学願を校長に提出し、校長の許可を受けなければならない。休学の理由が病気による場合には、医師の診断書を添えなければならない。

- 2 復学を認められた者は、原学年に編入する。

第24条 学生が退学するには、退学願を提出し、校長の許可を受けなければならない。

第5章 進級・卒業・留年

第25条 学科試験は各学年の学期ごと（前期・後期）に実施することを原則とする。ただし、必要のあるときは随時実施する。

第26条 学科試験は、その授業の授業時間に対し、5分の4以上の出席を条件とする。

- 2 病気やその他やむを得ない事情のため、欠課時数が5分の1を超過したものについては診断書等の提出により審議後、受験資格を与えることがある。
- 3 その他詳細については、別途定める。

- 第27条** 学科試験の方法は、学科目ごとに筆記試験、実技試験、またはレポート等により行うものとする。
- 第28条** 学科目ごとの試験の成績評価が60点以上に達した者は、履修した学科目について合格したものと評定する。成績の評定は、次のとおりとし秀・優・良・可を合格とし不可は不合格とする。
- (1) 秀 90点以上
 - (2) 優 80点以上90点未満
 - (3) 良 70点以上80点未満
 - (3) 可 60点以上70点未満
 - (4) 不可 60点未満
- 第29条** 疾病その他やむを得ない理由で第25条に規定する学科試験を受けることができなかった場合には、各科の職員会議で校長が正当であると認めた者に限り、期日を定めて追試験を行うものとする。
- 2 前項の規定により追試験を受けようとする者は、追試験願に科目名・試験日程および理由を記載し、指定の期日までに事務室へ費用を添えて提出し、校長の許可を受けなければならない。
 - 3 追試験の評価は、60点以上を合格とする。なお、この場合の当該科目の最終評価については、60点をもってその者の成績とする。
 - 4 追試験は、原則として1回実施する。追試験が不合格の場合は、再々試験を受けることができる。
 - 5 追試験の費用は、別途定める。
- 第30条** 学科試験の成績が不可の場合は、再試験を実施する。
- 2 再試験を受けようとする者は、再試験願に科目名および試験日程を記載し、指定の期日までに事務室へ費用を添えて提出し、校長の許可を受けなければならない。
 - 3 再試験の評価は、第29条に準ずる。
 - 4 再試験は、原則として1回実施する。再試験が不合格の場合は、再々試験を受けることができる。
 - 5 再試験の費用は、別途定める。
- 第31条** 追試験および再試験が不合格の場合は、再々試験を実施する。
- 2 再々試験を受けようとする者は、再々試験願に科目名および試験日程を記載し、指定の期日までに事務室へ費用を添えて提出し、校長の許可を受けなければならない。
 - 3 再々試験の評価は、第29条に準ずる。
 - 4 再々試験の費用その他は、別途定める。
- 第32条** 実習成績の評価は、教育課程に基づいて行う。
- 2 所定の実習時間の5分の4以上の実習を行っていない者は、その評価を受けることができない。
 - 3 実習成績の評価は、第28条に規定する学科試験の成績評価に準ずる。
- 第33条** 疾病その他やむを得ない理由で前条第2項に規定する実習評価を受けることができなかった者には、補習実習を行うことがある。

- 2 補習実習の評価方法については、当該教務主任および実習指導担当教員が協議し、校長が決定する。

第34条 実習成績の評価において不合格の者には、再実習を行うことがある。

- 2 再実習の評価・方法等については、第30条の規定を準用する。

第35条 校長は学年ごとに次の各号に該当する者については、各科の職員会議に付して進級を認定する。

- (1) 当該学科の出席すべき時間の5分の4以上出席していること。
- (2) 当該学年の履修すべき科目の成績評定が可以上であること。
- (3) 授業料、その他の諸納付金を完納している者。

第36条 校長は次の各号に該当する者について、各科の職員会議に付して卒業を認定する。

- (1) 当該学科の出席すべき時間の5分の4以上出席していること。
- (2) 当該学科の履修すべき科目の成績評定が可以上であること。
- (3) 授業料、その他の諸納付金を完納している者。
- (4) 上記により卒業を認定された者には卒業証書を授与し、下記のとおり専門士の称号を授与する。

課 程 名	学 科 名	告 示
医療専門課程	臨床工学技士科	平成10年12月21日新規告示 平成23年12月22日変更告示
歯科技術専門課程	歯科技工士科	平成 8年12月 4日新規告示 平成23年12月22日変更告示
歯科技術専門課程	歯科衛生士科（3年課程）	平成20年 2月26日新規告示 平成23年12月22日変更告示

第37条 校長は次の各号に該当する者について、各科の職員会議に付して留年を認定する。

- (1) 第31条の規定により再々試験に合格しなかった者。
- (2) 第34条の規定により進級の認定を受けなかった者。
- (3) 第35条の規定により卒業の認定を受けなかった者。
- (4) 留年は同一学年に1回までとする。
- (5) 留年した者は、次年度全学科を履修し、その評価を受けなければならない。

第 6 章 学 費

第38条 入学金、授業料、実習費等は、次のとおりとする。学費は、前期、後期と二期に分けて納入することとする。ただし、入学金（入学時のみ）は一括全納とする。

1. 臨床工学技士科 （単位：円）

入学金（入学時）	300,000		
区 分	金 額（年 額）	前 期	後 期
授 業 料	700,000	350,000	350,000
実 習 費	350,000	175,000	175,000
施設設備費	100,000	50,000	50,000
合 計	1,150,000	575,000	575,000

2. 歯科技工士科 （単位：円）

入学金（入学時）	300,000		
区 分	金 額（年 額）	前 期	後 期
授 業 料	600,000	300,000	300,000
実 習 費	450,000	225,000	225,000
施設設備費	100,000	50,000	50,000
合 計	1,150,000	575,000	575,000

3. 歯科衛生士科 （単位：円）

入学金（入学時）	300,000		
区 分	金 額（年 額）	前 期	後 期
授 業 料	470,000	235,000	235,000
実習費	1 年次	130,000	65,000
	2,3 年次	260,000	130,000
施設設備費	100,000	50,000	50,000
合 計	1 年次	700,000	350,000
	2,3 年次	830,000	415,000

第39条 所定の学費は、指定期日までに納入しなければならない。納入を怠ったり督促を受けて尚、納入しない時は除籍とする。

第40条 一旦納入した学費は、原則として返還しない。

第7章 賞 罰

第41条 学業品行共優秀で、他の模範とすることの出来る学生は褒賞することがある。

第42条 学生の本分に反し、または学則に違反した行為のあった場合は、之を懲戒する。

2 懲戒は、訓告、停学、退学とする。

3 前項の退学は、次の各号の1に該当する者に対してのみ行う。

(1) 素行不良で改善の見込みがない者

(2) 疾病または学力劣等等で卒業の見込みがない者

(3) 正当の理由がなく欠席が続く者

(4) 学校の秩序を乱し、その他本校学生としての本分に反した者

第8章 雑 則

第43条 健康診断は毎年1回実施し、全員受診しなければならない。

第44条 この学則の施行についての必要な細則は、校長が定める。

附 則

(第2, 第4土曜日、休業日の設定及び歯科衛生士科授業料の変更)

平成5年4月1日より施行。ただし、第32条の規定については、平成5年度入学生から適用する。

附 則

(歯科技工士科、学科課程、時間数の変更)

平成7年4月1日より施行。ただし、平成7年度入学生から適用する。

附 則

(臨床工学技士科、学科課程、時間数の変更)

平成10年4月1日より施行。

附 則

(専門士の称号授与の追加)

平成11年3月より施行。

附 則

(臨床工学技士科、歯科技工士科、歯科衛生士科、授業時間数の変更及び歯科技工士科、歯科衛生士科の学費の一部変更)

平成14年4月1日より施行。ただし、平成14年度入学生から適用する。

附 則

(歯科技工士科の定員及び学級数の変更)

平成16年4月1日より施行。

(歯科技工士科の専任教員数の変更)

平成16年4月1日より施行。

(臨床工学技士科授業時間数の変更)

平成16年4月1日より施行。ただし、平成16年度入学生から適用する。

附 則

(主要会議の規程)

平成17年4月1日より施行。

(臨床工学技士科、歯科衛生士科の単位制の導入及び教育課程の変更、臨床工学技士科、歯科技工士科、歯科衛生士科の学科目評定条件の変更)

平成17年4月1日より施行。ただし、臨床工学技士科、歯科衛生士科の教育課程変更は平成17年度入学生から適用する。なお、臨床工学技士科、歯科技工士科、歯科衛生士科の学科目評定条件変更は平成17年度の在籍学生から適用する。

(歯科衛生士科の専任教員数の変更)

平成19年4月1日より施行。

(転入学における既修得科目の取り扱い)

平成17年4月1日より施行。

(歯科衛生士科3年課程に伴う、実習費の明記)

平成17年4月1日より施行。ただし、平成17年度入学生から適用する。

附 則

(納付金納入方法の変更)

平成19年4月1日より施行。ただし平成19年度の在籍学生から適用する。

附 則

(第14条 条文の変更、法改正により90条へ変更)

平成19年12月26日より施行。

附 則

(専門士称号授与)

平成20年2月26日より施行。

附 則

(臨床工学技士科、教育課程(科目名および単位数)の変更)

平成20年4月1日より施行。ただし平成20年度入学生から適用する。

(歯科衛生士、教育課程(時間数)の一部変更)

平成20年4月1日より施行。ただし平成20年度入学生から適用する。

附 則

(歯科技工士科の定員変更及び学級数の変更)

平成21年4月1日より施行。

附 則

(教職員数の変更)

平成21年4月1日より施行。

(会議の一部変更)

平成21年4月1日より施行。

(進級・卒業・留年について変更)

平成21年4月1日より施行。ただし平成21年度在学学生から適用する。

附 則

(歯科技工士科の定員変更および学級数の変更)

平成22年4月1日より施行。

(臨床工学技士科の教育課程(単位数ほか)の一部変更)

平成22年4月1日より施行。ただし平成22年度入学生から適用する。

(教職員組織の変更に関する事項)

平成22年4月1日より一部改正して施行する。

附 則

(歯科技工士科・歯科衛生士科の教育課程(時間数他)の一部変更)

平成23年4月1日より施行。ただし平成23年度入学生から適用する。

(校名変更)

平成23年4月1日より施行。

(学費の改定)

平成23年4月1日より一部改正して施行し、平成23年度の入学生から適用する。

(教職員組織(学科長の廃止)に関する事項)

平成23年4月1日より一部改正して施行する。

附 則

(住所変更)

平成23年9月1日より一部改正して施行する。

附 則

(専門士称号の付与に変更)

平成23年12月22日より一部改正して施行する。

附 則

(教職員組織(教務部長の廃止)の変更に関する事項)

平成24年4月1日より一部改正して施行する。

(様式番号および標記の変更に関する事項)

平成24年4月1日より一部改正して施行する。

附 則

(臨床工学技士科の教育課程(単位数ほか)の一部変更)

平成25年4月1日より施行。ただし平成25年度入学生から適用する。

(歯科衛生士科の教育課程(単位数ほか)の一部変更)

平成25年4月1日より施行。ただし平成24年度入学生から適用する。

附 則

(歯科衛生士科の教育課程の一部変更)

平成26年4月1日より施行。ただし平成26年度入学生から適用する。

附 則

(歯科技工士科の教育課程(科目名および時間数)の一部変更)

平成28年4月1日より施行。ただし平成28年度入学生から適用する。

附 則

（臨床工学技士の教育課程（科目名および時間数、単位数）の一部変更）

平成30年4月1日より施行。ただし平成30年度入学生から適用する。

附 則

（学費の改定）

平成31年4月1日より一部改正して施行し、平成31年度の入学生から適用する。

（歯科技工士の教育課程（科目名及び時間数、単位数）の一部変更）

平成31年4月1日より施行。ただし、平成31年度入学生から適用する。

附 則

（臨床工学技士の教育課程（科目名および時間数、単位数）の一部変更）

令和5年4月1日より施行。ただし令和5年度入学生から適用する。

附 則

（条文の一部変更、および様式の分離）

令和6年4月1日より一部改正して施行する。

（歯科衛生士の性別による入学者限定の廃止）

令和6年4月1日より施行。ただし令和6年度入学生から適用する。

附 則

（歯科技工士の教育課程（科目名）の一部変更）

令和7年4月1日より施行。

（教職員組織の変更に関する事項）

令和7年4月1日より一部改正して施行する。

（進級・卒業・留年に関する事項）

令和7年4月1日より一部改正して施行する。